大賞

松ミりえ様/富山県/２９歳/女性/主婦/夫にあてた手紙

第 13 回 芥川龍之介恋文大賞　応募用原稿用紙

職場で出会った私とあなた。

あの時はただの同僚だったのに、今では同じ屋根の下、向かい合って座り、珈琲を飲んでいる。暖かくて彩りのある毎日に、あなたと出会えていなかったら、私の人生はどうなっていたのだろうと、恐怖すら感じます。

元々私は、結婚を諦めていました。進行性の難病があったからです。いずれ車椅子になるかもしれない。医師からは、そう言われました。介護が必要ということです。

車椅子の生活ということは、介護が必要ということです。

私は、人に迷惑をかけたくなかった。でもあなたは、その気持ちを取り払ってくれました。

「病気が理由でなんて、別れたりしない」

「一生面倒みるから」

病気について打ち明けた私に、あなたはそう言ってくれました。

病気のことを調べてくれたり、一緒に医師の話を聞いてくれたり、あなたが一生懸命に

第 13 回 芥川龍之介恋文大賞　応募用原稿用紙

理解しようとしてくれたから、私は、差し伸べられた手を掴む勇気が持てたのです。

この人を幸せにしたい。交際している時、自然とこんな気持ちが湧きました。でも、結婚してからというもの、あなたに助けられてばかりのように感じます。私も、少しでも、あなたの力になれていたら嬉しいです。

出会ってしまったら、いつか別れが来る。プロポーズされた日、そのことを思うと涙がこぼれ、あなたに「勝手に殺さないで」と笑われました。私は今でも、ふと想像して、切ない気持ちになることがあります。

病気もあり、いつまであなたの隣を歩ける分からないけれど、一生一緒がいい。それが正直な思いです。

こんな私を選んでくれてありがとう。これからも、どうぞよろしくお願いします。